

# 最新売れ行きBEST本

☆印は初登場!!

2001.4.1~4.30

TTCネットワーク月間データ

(学参を除く小社全書籍の売れ数)

	書名	著者名	本体	配本日	前月順
☆	1 すべてきみに宛てた手紙	長田 弘	1800円	01.4.11	New
	2 普及版 数の悪魔	H.M.エンツェンスベルガー	1600円	00.8.23	1
☆	3 フクロウの不思議な生活	クリス・ミード	1900円	01.3.30	New
	4 軟弱者の言い分	小谷野敦	1600円	01.2.27	3
	5 であればムリかずに生きたい	田口ランディ	1400円	00.10.11	2
	6 馬鹿な男ほど愛おしい	田口ランディ	1400円	00.5.31	4
	7 誰も教えてくれない聖書の読み方	ケン・スミス	1800円	01.1.24	6
☆	8 オンナ泣き	北原みのり	1600円	01.3.30	New
	9 もう消費すら楽しくない彼女へ	田口ランディ	1600円	99.12.17	5
	10 がん患者学	柳原和子	2600円	00.7.7	9
☆	11 ロバートは歴史の天使	H.M.エンツェンスベルガー	2200円	01.3.30	New
	12 森の人 四手井綱英の九十年	森まゆみ	1900円	01.1.24	10
↑	13 新教養主義宣言	山形浩生	1800円	99.11.29	17
	14 ロードショーが150円だった頃	川本三郎	1900円	00.12.20	8
	15 考える練習をしよう	M.バーンズ	1650円	85. 3月	13
	16 運鈍根の男	砂川幸雄	1900円	01.2.23	12
	17 内田魯庵山脈	山口昌男	6600円	01.1.5	11
	18 あなたの想い出	高平哲郎	1900円	00.12.15	14
	19 日本史を走れ!	松尾秀助	1900円	01.1.16	7
	20 強迫性障害からの脱出	リー・ベアー	2200円	00.12.20	16

おまたせしました!  
**重版出来**

朝日新聞

4月22日(日)

誌書面紹介!

売れやす

ワイルドライフ・ブックス

**フクロウの不思議な生活**

3月30日配本

クリス・ミード 著 斎藤慎一郎 図

本体1900円 ISBN4-7949-4699-6

「古代から知恵の象徴とされ、森の賢者とも呼ばれる彼らが、実際に賢い生きもののためのかを愛情を込めてつづる。」——朝日新聞・清水克雄氏評

こちらにもお待たせ!!

3刷重版中 5月下旬頃出来予定

誰も教えてくれない  
**聖書の読み方**

ケン・スミス 著 山形浩生 図  
本体1800円 ISBN4-7949-6473-0



ISBN4-7949-6454-4



こちら『普及版 数の悪魔』は  
聖書の神様も  
びっくりの面白さ  
悪魔の保証つき!!  
売れ行き絶好調!!



**晶文社近刊案内** 5~6月は盛りだ!!

池内了『科学は今どうなっているの?』5/25配本

橋爪紳也『人生は博覧会 日本ランカイ屋列伝』

高間賢治『シーナ映画とコーキ映画』撮影監督の現場裏はなし

赤瀬川原平『全面自供!』赤瀬川原平さん語り下ろし自伝!

森口秀志編『これがボランティアだ!』国際ボランティア年を飾る  
家録インタビュー集!

さきあすか『ガラクタをちまぶ台にのせて』懐しくゆい古い道具満載!

『KGBの世界都市ガイド』世界各地に暮らしたKGBたちの都市案内?!

黒崎政男『哲学者クロサキの写真論』デジタル時代の新・写真論

ホトリー編『投書狂 グレアム・グリーン』投書から見る20世紀証言集

介護支援研究会編『ケアマネジャー基本問題集'01』上下

田淵義雄『アウトドアライフは終わらない』アウトドアオナー者の  
集大成エッセイ!

## 麺食いシマダのこの店に行け!

★広島出身の「村上さん」はレーズを辿るとみんな「村上水軍」に行きつくそう。小社にもその姓をもった美人で頭のいい編集者がいた。ある日、川上宗薫との対話の中で「賀茂鶴」のニヒを「かもづる」といったら「キミ、広島の人間がそんな言い方はしない。酒は濁って安酒になっちゃう。かもづる」が正しい言い方」とたしなめられた、と話してくれたことを思い出す。また、長いおつき合いの出版評論家と女性の信明さんも広島出身である。そして二人に共通しているのが熱狂的なカープファンだ!というニヒ。つい先ほども出版評論家からは大野豊のサイン会に行つてご満悦だった旨のEメールが自宅に届いたばかり。50代半ばにしてなお失礼ない初々しい感性に敬服する。一方、美人編集者は時あたかも



カープ初優勝の年にわたくし野球の世界に引きずり込まれた張本人である。その誘い方が秀逸だった。「一緒に応援して、もし優勝したら、新橋の「酔心本店」であげる。1975年のことである。もちろん奢ってもらったのはいうまでもない。「村上さん」には頭が下がる。さて、ラーメンである。和歌山とか徳島とか尾道あたりが「ご当地」ラーメンのニューウェーブらしいが、今回は広島である。広島ラーメンの特徴を聞くと「いりだしヒトコツスープにストレート麺」とのこと。スープの見た目は醤油ヒトコツの中間である。どんぶりに顔を近づけると魚のだしが香る。二のゴロは甘めが主流だが二ヒは辛めに仕立ててある。なるほどストレート麺との相性がいい。麺は毎日広島から直送とのこと。具はメンマ・モヤシ・チャーシューにワケギがたっぷり。チャーシューは薄切り2枚のせにして、味はしっかりとだしを吸収してシャープ

である。そのラーメンは600円だが、おすすめは「ラーメン定食 750円」。白いご飯、ぬか漬けの漬物に一品(この日はダイコンとニンジン)の細切りにゆで卵が添えられたサラダが付く。テーブルに置かれた、商品名「食べるとうがらし」というふりかけをご飯にふりかけ食す。あの「カプサイシン」が不定愁訴ならびにダイエットに効く。(あ、これ前回と同じ展開ね) 店名「水軍」。場所  
は京王線代田橋駅南口を出てまん前。  
もちろん村上水軍からとられた名だが、戦国時代に国中を覆え上がらせた海賊である。麺以外では、ギョウザ二面に白いご飯(食べるとうがらしのせ)と漬物にこの日の一品の「ギョウザ定食」750円もいける。薄皮でパリッと焼けたギョウザをダイコンおろしで食すのだが、気分はなぜか「村上水軍」。元気がでるのだ!【営業部・島田孝久】